普通の人なんていない
普通じゃない人もいない

「感謝の気持ちを歩みに変えて」

竹中　晃子

広汎性発達障害の診断が下りて、もう9年もの月日が流れました。幼い頃から違和感を感じながら学生生活の大半を生きてきましたが、自分が発達障がいだと分かってからは、ずいぶんと生きやすくなったと思います。

大学卒業から3年がかりで福祉関係の仕事に就職するも、仕事がなかなか覚えられなかったり、利用者のけがにつながるミスを連発したりして、わずか2カ月で退職せざるを得なくなりました。その後、公共職業訓練や障がい者職業センターの準備支援を受けるなどし、今の仕事にたどり着くまでには、１年ほどかかりました。自分の障がいのことを伝えて応募しようとすると、「うちでは責任がとれない」という返事ばかり。履歴書も送らせてくれない。面接にもたどり着けない状況でした。そんな中、採用されたのが今の職場。内定の連絡が来たとき、友達をはじめ周囲の人には「前職のような事態にならないように、頑張ります。」と伝えました。

その一方で、前職でのトラウマがあり、きちんとやっていけるか、入職の前は不安がかなり強かったです。しかし、入職後は、職場の方が暖かく迎えてくださったのに加え、自分の特性が生かせる仕事のため、かなり働きやすい感じでした。自分でも、依頼された仕事が急ぎでないか確認する、仕事が立て込んだときは依頼されている仕事内容を箇条書きにして、目につくところに掲示しておく、といった工夫をしています。

さらに、35回目の誕生日を迎えたのを機に、今年4月から2回目の1人暮らしを始めました。さまざまな人の支えのお陰で、前回2カ月しか持たなかったのが、もう7カ月目に突入しています。

最後に一言。今の職場にて9年も働くことができているのに加え、1人暮らしという自立も叶ったと感じています。また、これまで孤立してばかりだったものの、中学校の頃の恩師や幼なじみ数名、主治医の先生、職場の方など、人には恵まれていると思います。これからも、応援してくださる方への感謝の思いを忘れずに、歩みを進めていきたいです。

「工夫と周囲のサポートを糧に」

岩村　一光輝

私は仕事でよくメモを取るようにしています。

何故なら、私は記憶をとどめておく事が出来ない障がいがあるからです。このメモには、一言で言うと改善点などを記入しています。

メリットの一つ目は覚えておくことができるので仕事のミスが減る。二つ目は直筆で書くと脳が活性化しアイデアが浮かびやすくなる。三つ目は思いつきなどをメモし、考えを整理することができるということです。

この三つ目がなかなか面白く、普段から思いついたことを書き出し、考えを整理することで、今まで思いつかなかった事が頭に浮かぶようになり、更に深めて追求していくことができます。昔は丁寧に書いていましたが、記入しているうちに忘れる状況がありました。だから最近では大ざっぱに書いてあとで思い出せるようにしています。

私は、二十歳になるまで自分の障がいの事を知らずに過ごしてきました。

就職して壁に打ち当たり、「それは誰にでもあることだから」と周りに言われましたが、私の場合“そういう事ではなくて…”と説明出来ずに苦しみました。

そして、辞めると母に相談した時に生まれつき障がいがあると告げられ、今まで胸につかえていたものがスッと取れたような気がしました。

しかし、それから1年程仕事が見つからず引きこもりのようになってしまいました。これではいけないと思い、就労支援の方々の力をお借りして、障がい者でも働きやすい職場を紹介していただき4年経ちました。

最後に家族や就労移行支援センター「らぼーる宇城」、計画相談支援所「笑顔の倫」、就業・生活支援センター「結」や熊本県立松橋西支援学校の職員の皆さま方へ。

成長の遅い私に就職に関する支援をしてくださったことありがとうございました。

無理しないようほどほどに努力し、正規雇用を目指していく予定ですので、これからもよろしくお願いいたします。

その人に目を向けよう

大事なことは、「発達障がい」と区別するのではなく、どんな魅力があるのかといった「人」自身に目を向けること。社会生活で問題が起こっても本人の性格や相手のせいだと決めつけて投げ出さずに、どうやったら解決していけるのかを話し合いましょう。

日常も仕事もチームで

長所や短所は誰もが持っているもの。工夫し合い、互いに補い合えば、障がいを特別とは思わなくて済む。今、困っていないか、つらくなっていないか相手を思いやる。小さな配慮が積み重なれば、誰もが暮らしやすい世の中に、きっとなる。

個々が輝くために

一人一人に合った応援があれば、誰もが自分らしく、生きていける。

それならば、共に歩いていこう。支え合いながら。